

はじめに

本学では、「実践力を身につけ、現代的課題に対応した高度な教員の養成」を第3期中期目標期間に重点的に取り組むべき課題の一つに掲げ、平成28年度から『「主体的・協働的な学び」を実践できる教員の養成 ―アクティブ・ラーニングを導入した新たな学習指導方法の開発―』プロジェクトに着手しました。プロジェクトでは、①アクティブ・ラーニング授業が実践できる教員養成プログラムの開発、②アクティブ・ラーニング授業が実践できる現職教員研修プログラムの開発、③アクティブ・ラーニング授業が実践できる大学教員の養成プログラムの開発、④アクティブ・ラーニング授業の指導方法・教材の開発、アクティブ・ラーニング授業の推進・拡充を通して、主体的な問題発見能力や能動的な学修活動能力を育成することを目的としています。

折しも次期学習指導要領についての議論の中で、新たな学習・指導方法として「アクティブ・ラーニング」が取り上げられたこともあり、社会的にも「アクティブ・ラーニング」に対する関心は高まっています。一方で、「アクティブ・ラーニング」とは何か、といった根本的な問いかけには様々な解説があるようで、実体はぼんやりしています。文部科学省の資料の中でも、「能動的学修」にはじまり、少し前は「主体的・協働的な学び」、そして、最終答申では「主体的・対話的で深い学び」と変わってきています。本学では、大学教員がアクティブ・ラーニング授業を実践し教育効果を高めるのみならず、アクティブ・ラーニング授業を実践できる教員の養成を課題としています。次期学習指導要領の全面实施を間近に控え、根本的な問いかけからプログラム開発、さらに実践まで、本プロジェクトへの期待は大きいものがあります。

米国の研究者が、アクティブ・ラーニング型の授業（Interactive-engagement）は、従来型の授業（Traditional）に比べ、物理学の理解度向上に効果的であるとの論文を出しています。具体的にどのような授業なのか、論文だけではイメージできませんが、アクティブ・ラーニングの効果を実証的に示したものです。本プロジェクトでは、アクティブ・ラーニング等を取り入れた授業を学士課程、大学院課程ともに全開講授業の6割以上で導入することを目標としています。導入した結果、学生や院生の主体的な問題発見能力や能動的な学修活動能力がこれまで以上に身に付いたとする実証的な成果をも期待するところです。

本報告書には、平成28年度の実績成果をまとめていただきました。アクティブ・ラーニング授業の推進、拡大を目的として開催されたFD講演会等の内容が掲載されています。ご活用いただくとともに、本プロジェクトへのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成29年5月

研究・附属学校担当理事

菅沼 教生